

出題分析			
試験時間	180分	配点	300点
		大問数	2題
分量（昨年比較）	〔減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加〕	難易度変化（昨年比較）	〔易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化〕
<p><b>【概評】</b></p> <p>設問は2つで、それぞれに問いが2つあり、解答用紙は全部で4枚という、例年と同じ形式の出題であった。解答の分量は、設問2問1以外は総量25行分ずつで、例年と同様であったが、設問2問1のみ(1)10行(2)4行(設問文では2行程度)と、例年よりも大幅に減量となった。ただし、資料については、設問1で資料1～11、設問2で資料1～9と、多かった昨年よりもさらに増加したため、読み取りやまとめ方には例年通り苦勞する設定であった。出題テーマについては、設問1は近年話題になっている日本の観光に関するもので、書く内容も思い浮かびやすかったであろうが、設問2は、CO<sub>2</sub>の地下貯留のリスク（誘発地震やCO<sub>2</sub>漏出）という凝ったものであった。とはいえ、一昨年の設問2「九州内に高レベル放射性廃棄物の地層処分場を設置する場合の候補地」の問題と似たところがあったため、過去問研究をしていた受験生は、比較的取り組みやすかったのではなかろうか。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	観光立国の観点から考える、地方都市にある駅前商店街を含めた地域の活性化のための施策	問1(1)は、資料1を資料2～5と関連付け、用意された9つのキーワードのうち3つ以上を用いながら、時系列に沿って説明する、(2)は、資料1と資料6～8から、日本のインバウンド観光の特徴について説明する、という問題。資料を読み込んで活用できる要素を集め、近年の観光に関するニュースなどから得た情報と絡めながら、まとめていけばよい。問2は、資料9～11も参考にしながら、博多駅から電車で60分ほど離れた地方都市の駅前にある商店街とその地域を活性化させる施策の計画を立てる、という問題。「明確なコンセプトを設定」と、傍線付きで指定してあるため、資料の各要素を参考にして、より具体的に発案することが重要である。	やや易

設問別講評			
二	地球温暖化の緩和策である CO <sub>2</sub> の地下貯留に対する誘発地震や CO <sub>2</sub> 漏出のリスク	問 1 (1) は、資料 1～3 に基づき、大気中の CO <sub>2</sub> 濃度変化と化石燃料の形成の関連性を説明する、(2) は、大気中の CO <sub>2</sub> を削減するための基本的な考え方を「炭素の循環」というキーワードも含めて記述する、という問題。問 2 の展開も考慮に入れながら、資料を読解して説明に必要な要素を組み立てよう。問 2 (1) は、資料 4 を踏まえ、資料 5～7 に基づいて、地下に注入された流体と地震との関係と、誘発地震の発生数を抑制するための注意点を説明する、(2) は、資料 8～9 のデータを参考にしつつ、CO <sub>2</sub> 漏出のリスク評価に関するデータと情報の収集や提言について考えを述べる、という問題。出題者の意図を汲み取り、読み取れる要素を結びつけて、答案をまとめよう。	やや難

#### 合格のための学習法

記述量が多いため、時間内に満足のいく答案を書き上げる力をつけるためには、同程度の分量の小論文を数多く書く経験を積むことが不可欠であろう。その上で、「環境や食糧、人権、経済的格差など、地域や国を超えた地球規模の人类的な問題」に日頃から興味関心を持ち、周囲の友人や大人たちと意見交換をする、といったことも、行なっていくことが望ましい。また、現代文と同様の長文を読解する力を育むことも重要である。